

◆ 巻頭言

未来を拓く“縁の下の力持ち”

橋本 葉子

私は、小学校から国民学校（6年間）、女学校から高等学校（6年間）、4年制大学受験、一般教養所定の単位を取得（2年間）、医学部受験、医学部（4年間）卒業、1年間のインターン終了後国家試験、医師免許を取得（最速で19年間）という戦中・戦後の学制改革に翻弄された世代です。

私の母校東京女子医科大学の創立者「吉岡彌生」先生は医師であり、社会活動家でありました。彌生先生が常に心がけたことは、「至誠」（夫君の吉岡荒太先生がTreu und Ernstを至誠と訳された）の心構えで患者の治療に当たり、初心を忘れないことでありました。これは、彌生先生が生涯にわたって女子医科大学卒業生に求めた、医師の心でありました。そして、至誠の心構えを一生貫くという思いを込めて、「至誠一貫」という書をたくさん残され、「至誠」と「愛」は大学の理念として引き継がれております。

私の専攻は「視覚生理学」ですが、網膜を構成する個々の細胞の刺激に対する応答を記録し、細胞間の情報処理機構を調べ、網膜全体の機能を明らかにすることでした。電気生理学的、電顕も含めた組織学的、顕微分光光度学的手法など、使用可能な種々の手法を使って地道に解析を積み上げていく、“縁の下の力持ち”のような40年間の研究生活でした。

“縁の下の力持ち”は科学の発展のためには必要不可欠のものと、今でも考えていますし、このような地道な学習と実践の積み重ねは、これからの女性たちの成長と社会の変革にもつながるものと信じております。



PROFILE

橋本 葉子
(はしもと ようこ)

東京女子医科大学名誉教授。専門は視覚生理学。東京女子医科大学国際統合医科学インスティテュート特任教授。掛川市吉岡彌生記念館[※]館長。国連 NGO 国内婦人委員会副委員長、男女共同参画推進連携会議副議長、前日本女医会会長、前至誠会（東京女子医科大学医学部同窓会）会長。趣味はレース編みと書道。

※記念館連絡先
TEL 0537-74-5566